

資料対比表

環境との調和への配慮のための技術指針について(説明資料)

環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の手引き

調査・計画に関する基本的事項

1. 農村環境の特質
 - (1) わが国の農村環境の特質
 - (2) 配慮すべき環境
 - 環境要素の種類
(参考) 米国会環境政策法(NEPA)における環境配慮の考え方
 - 今回検討する環境の範囲
 - 農業用排水路から水田まわりに生息する動植物
 - 土地改良施設とそこに生息する動植物の関係
 - (3) 調査計画を行う際の空間的視点
(参考) ピオトープネットワークの考え方
2. 環境との調和への配慮を目指した事業計画の策定
 - (1) 事業実施の流れ
(参考) より良い計画を作成するためのしくみ
環境に係る情報協議会の設置
環境相談員の活用
 - (2) 田園環境整備マスタープラン
田園環境整備マスタープランの概要
田園環境整備マスタープランの内容
 - (3) 農村環境計画

環境に係る調査

1. 調査の必要性と趣旨
 - (1) 調査の必要性と農村の自然環境の特徴
 - (2) 環境との調和への配慮を目指した調査の考え方
 - (3) 環境との調和への配慮を目指した基本的アプローチ
2. 調査の手順
 - (1) 田園環境整備マスタープランの反映
 - (2) 調査の手順
3. 概査
4. 精査
 - (1) 調査方針の決定
 - (2) 調査の実施(動物、植物、生息生育環境等の調査)
(参考) 農村環境における主な動物調査手法の例
(参考) 農村環境における主な植物調査手法の例
 - (3) 調査を実施する際の留意点
生物のライフサイクル
種間関係の把握
水管理と生物との関係
営農生物との関係
5. 調査結果のとりまとめと計画への反映

計画の基本的考え方

1. 計画の基本事項
 - (1) 計画策定の留意点
 - (2) 計画策定の基本方針
2. 計画策定の基本原則
 - (1) 計画の考え方とミティゲーション5原則
3. 保全対象の設定
4. 整備する環境条件と実施するエリアの検討

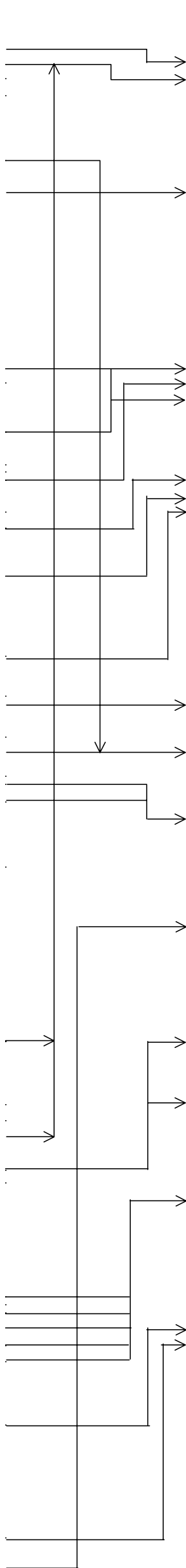
設計の基本的考え方

1. 生態系から見た望ましい姿 = 「水田と水路、ため池との連続性の確保」
 - (1) 水田を生育環境とする多様な生き物
 - (2) ため池を生育環境とする動植物
 - (3) 水田と水路、ため池の連続性(つながり)の意義
 - (4) 連続性の確保のための配慮
2. 施設画上の配慮ポイント
 - (1) 「施設」と「地域において保全すべき種」の特性の観点からの検討
 - (2) 施設画上の配慮ポイント
3. 設計における基本的留意点
 - (1) 設計の基本的事項
生物の生息環境(水深・流速)の確保
構造物としての基本条件の確保(安全性、経済性及び維持管理作業性)
環境に配慮した資材の採用
 - (2) 生物の生息環境の確保と経済性・維持管理作業性とのバランス
 - (3) 設計基準「水路工」の柔軟な適用
 - (4) 創意工夫による設計
4. 設計の手順
5. 設計条件の設定
6. 路線設計
7. 水路断面工法選定の考え方
8. 水理設計
 - (1) 縦断設計
 - (2) 排水路系における水面の連続性の確保
 - (3) 横断設計
9. 施工計画の留意点
 - (参考1) 用水路の工法比較例
 - (参考2) 排水路の工法比較例
 - (参考3) 排水路の工法比較例
 - (参考4) 用水路の断面検討例
 - (参考5) 排水路の断面検討例
 - (参考6) 区間別水路断面工法の検討例(排水路)

現況水路が三面張水路の場合
現況水路が積みブロック護岸の場合
10. モニタリング調査

地域住民参加による計画づくり

1. 住民参加の必要性と意義
2. 構想から維持管理までの各段階における地域の合意形成
3. 地域の合意形成を図る際の行政の果たす役割
 - (1) 地域の「調整役」としての役割
 - (2) 地域の調整役としての留意点



第1章 総論

- 1.1 手引きの目的
- 1.2 取り扱う範囲
- 1.3 農村の自然環境の特質
- 1.4 今回の対象範囲における生物・生態系について
 - 1.4.1 水田を生育環境とする多様な生き物
 - 1.4.2 ため池を生育環境とする動植物
 - 1.4.3 水田と水路、ため池の連続性の意義
 - 1.4.4 農業用排水路から水田の周辺に生息する動植物(事例)

第2章 環境配慮のための調査計画の仕組み

- 2.1 新たに整備する基本的な仕組みの概要
- 2.2 田園環境整備マスタープラン
- 2.3 環境に係る情報協議会
- 2.4 環境相談員

第3章 調査

- 3.1 調査の必要性
- 3.2 概査
 - 3.3 調査方針の決定
 - 3.3.1 調査方針の重要性
 - 3.3.2 調査方針の策定方法
 - 3.3.3 取りまとめ上の留意事項
- 3.4 精査
 - 3.4.1 調査の実施
 - 3.4.2 調査実施上の留意事項
 - 3.4.3 調査報告書の取りまとめ

第4章 計画

- 4.1 基本事項
 - 4.1.1 「環境との調和への配慮」の内容
 - 4.1.2 早期からの住民参加の重要性
- 4.2 計画策定の基本的考え方
 - 4.2.1 環境への影響を緩和するための方法
 - 4.2.2 水域及び緑地ネットワークの確保
 - 4.2.3 自然生態系保全のための空間的視点
- 4.3 計画の策定
 - 4.3.1 保全対象種の設定
 - 4.3.2 整備する環境条件と実施するエリアの検討
 - 4.3.3 施設計画の検討
 - 4.3.4 維持管理計画の検討
 - 4.3.5 計画策定上の一般的留意事項
 - 4.3.6 設計段階への引継
- 4.4 地域合意形成のための活動
 - 4.4.1 地域住民参加による計画づくり
 - 4.4.2 地域での合意形成
 - 4.4.3 合意形成を図る上での行政の役割
 - 4.4.4 地域の調整役としての留意点

第5章 設計

- 5.1 設計にあたっての基本事項
 - 5.1.1 基本事項
 - 5.1.2 創意工夫による設計施工
 - 5.1.3 設計基準の柔軟な適用
- 5.2 設計に当たって検討事項
 - 5.2.1 基本検討事項
 - 5.2.2 生物の生息環境の確保
 - 5.2.3 構造物としての基本条件の確保
 - 5.2.4 環境に配慮した資材の利用
 - 5.2.5 生物の生息条件の確保と経済性・維持管理作業性のバランス
- 5.3 設計の進め方
 - 5.3.1 設計の手順
 - 5.3.2 設計条件の設定
 - 5.3.3 路線設計
 - 5.3.4 水路断面工法選定の考え方
 - 5.3.4 水理設計
 - 5.3.5 縦断設計(連続性の確保)
 - 5.3.6 横断設計・工法の選定
- 5.4 施工計画・実施上の留意点
- 5.5 モニタリング